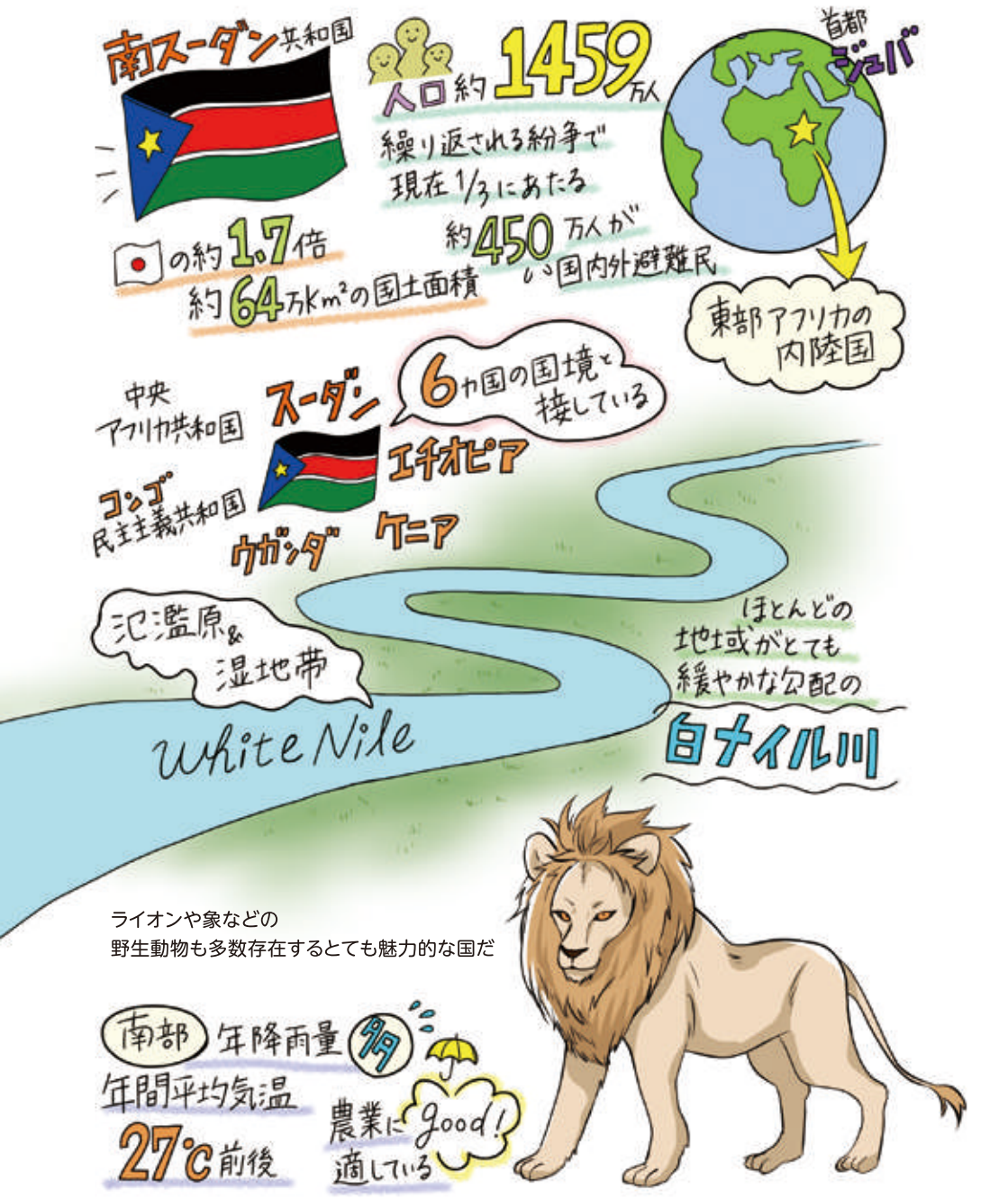
南スーダン
プロジェクトヒストリー「漫画版」
スポーツを通じた
平和と結束
南スーダン独立後初の全国スポーツ大会と
オリンピック参加の記録

JICA

独立後も紛争が続くなか、
『平和と結束』の実現に向けて、
この国初の全国スポーツ大会（『国民結束の日』）
開催と、オリンピック参加への奮闘を描いた
記録である


南スーダン共和国
人口約1459万人
繰り返される紛争で
現在1/3にあたる
約450万人が
国内外避難民
の約1.7倍
約64万km²の国土面積
首都ジュバ
東部アフリカの
内陸国
6カ国の国境と
接している
中央
アフリカ共和国
スーダン
エチオピア
コンゴ
民主主義共和国
ウガンダ
ケニア
氾濫原&
湿地帯
White Nile
ほとんどの
地域がとても
緩やかな勾配の
白ナイル川
ライオンや象などの
野生動物も多数存在するとても魅力的な国だ
南部
年降雨量
年間平均気温
27℃前後
農業に
適している
good!

半農半牧で生活を営んでいる

牧畜を中心とした半農・半牧で
生計を営んでいる民族は、乾期に水を求めて
移動する中、家畜用の草地・水場を巡る争い、
家畜争奪が頻繁に発生している

学校の
30%
教室に屋根ナシ
壁ナシ

60%以上の
生徒が水にアクセスできず…。

98%の学校に
電気通ってない。

給水率ジュバ人口3%程度

初等教育修学率44%

識字率27%と低い…

学校教育インフラ不足…

国家収入98%は
石油に依存…。

課題が山積みしている状況に
ある国…

紛争の歴史を
教えてください!

紛争が始まった背景には
南北格差を生まれさせた
歴史的背景があるんだ…

そもそも南スーダンには紀元 1000 年頃までには
ナイル系住民が居住していたらしい
白ナイル川上のスッドと呼ばれる大湿地帯が

交通の障害になり、9 世紀後半までヨーロッパ人の
立ち入りを拒んだ…アラブ人が北部スーダンに
移り住んだのは 12 ～ 13 世紀頃らしい

1821年	エジプトによるスーダン侵攻から、奴隷狩りが目的の商人が入りこみアラブ化が進む。エジプト支配に反発。
1881年	スーダン人の指導者が支配者に対し民衆を従え武装して立ち上がり、スーダン全土を制圧。
1885年	英国・エジプト軍が政権を倒す。
1899年	英国・エジプト共同統治が始まると、英国は「原住民統治」制度の下支配を導入。「南スーダン」をアラブ化とイスラム化から隔離するため、アラブ人を排除。
1928年	英国による南部「閉鎖」。南北間の人の往来を遮断。南北を異なる国として統治した。

南北それぞれに別々の行政と司法、
南北間の人の移動の制限、異なる
公用語の導入と宗教を適用された

経済開発的には?

北部には経済開発投資を行い、
南部には行わなかった
教育や社会的なことも南部に対しては
ほとんど投資をせず…

なるほど、それで色々な
南北格差が生まれることに…

南スーダンには2種類の
国内紛争要因がある
それは…

①家畜や土地を巡る
民族間の紛争

②反政府武装組織と
政府軍との対立や
武装組織による紛争

内戦についても詳しく
教えてください!

スーダンは 1956 年
それまで政治・経済的に
優遇されていた北部主導の
下に独立しました

これに対し南部では、政治・経済上の
権利や利益を北部の人に握られることへの
危機感が広がり、南部の兵士による反乱が
発生したんです

これをきっかけに南部の
「植民地化」反対が起こって
内戦に?

はい、この反政府活動が
南部全体に広がりましたが
第一次内戦は終わります

協定によって南部の
「地方自治」が認められて、ついに…

「南部地方政府」in JUBA

そこから、
どうして第二次内戦が?

その後、
石油が南北国境付近で発見されます
そのため南北の国境線を変更する
動きが出るのですが…

南部の意向や利益を無視した
そして…

1983年　第二次内戦が勃発

そういう流れ
なんですね…

反主流派は南スーダンの独立を主張し、主流派は統一スーダンを主張

それが 22 年も続いてしまったんですね?

第二次内戦では…

死者 約200万人

難民 約60万人

国内避難民 約400万人

が発生…

そして、2011 年 7 月 9 日
南スーダンは共和国として独立

国連における193番目の加盟国として、新たな道を歩み始めるんですね!

いや、それが…

新しく独立した国がやっと軌道に乗っていくかと思えた矢先…

2013 年 12 月 15 日

ジュバにて大統領警備隊同士が衝突!

難民 約 150万人

国内避難民 約 210万人 等を含め…

結果、
緊急人道支援を必要とする
南スーダンの人口は
410万人に上った

南スーダンの人々は繰り返される紛争で疲れきっています
この状況だと「目に見えるものを支援すること」も重要だけど
「希望を与えるような支援」も重要ですよね
南スーダンに必要なことは民族間の薄い結束や失われた国民間の信頼や結束を
少しずつ作り出すことじゃないですかね？
2014年11月
開発援助を実施する実務者である私は
南スーダンにJICA南スーダン事務所長として赴任
ヨロシク！
小林知樹次長
田口晋平所員
桑原知広所員
退避経験を踏まえて…ですが
ごく…
安全対策強化の為に皆で生活した方が良さそうかと…
一軒家に男性4人！
まさに合宿生活！！
今はジュバ以外の場所には立ち入れなくて、この状況で業務をしなければならないけど
みんなで乗り切りましょう！
そうして私たち4人は通勤、事務所業務、帰宅の道も一緒に行動し
夕食は当番制で作る様な生活になった

赴任して間もない頃

ワー！
ワー！

南スーダンの人々が今どんな生活を送っているのかを自分達の目で確かめに行った

ジュバ市内ではあちこちで若者達がサッカーをしている…楽しそうですね～

僕らもちょっとやりましょうか！？

そして…

サッカーに夢中になっていた私達ふと周りを見ると…

ワイ　ワイ

お

よかったら一緒にやりませんかー！？

いいのか？よーし！

観客に声をかけると沢山の人が参加してくれた

YEAH!!

一緒にサッカーをすると本当に年齢や国籍は関係なくなりますね

スポーツならではの一体感ってやつか～

一瞬で打ち解けますね試合が終わった頃にはもう仲間になっている

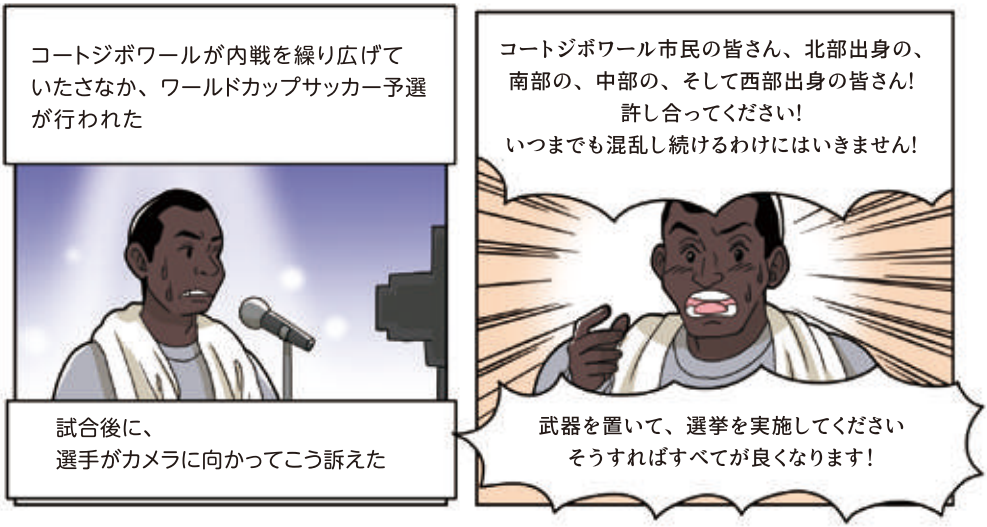
人と人をつなげるため民族間の交流や結束をもたらすために「スポーツ」を通じて平和構築できないものだろうか？

日本の戦後復興では「スポーツ」の果たした役割は大きかったようですしね

私たちはこんなことを考え始めたのだった

そして 2015 年 4 ～ 6 月にかけ、南スーダンはまさにこれから最も新しい国として
初めてオリンピックに参加すべく、オリンピ ック加盟国になろうとしていたことを知る

ここでコートジボワールの実例を1つ紹介しておこう



このスピーチだけが理由ではないが1週間以内に戦闘が止まったのだ

スポーツには、分裂した国民を一つにまとめる作用がある
南スーダンでもスポーツを通じて
国民の結束を図ることができるのではないか
独立後一度も開催されていない国体の開催は
信頼や結束を高め若者たちの希望の象徴になるのではないかと考えた

そして、独立後初の国体支援に向けての準備が
本格的に始まり、この２人に相談した

JICA サッカー部監督
戸川正人
国際協力人材部長

元 JICA サッカー部監督
乾英二
アフリカ部長

業務の枠を超えて

サッカーを通じた国際協力は
できないだろうか…

そうだ！古川さん
アフリカ部南スーダン担当の
伊藤美和職員と一緒に

日本サッカー協会を
訪問しましょう！

南スーダンの現状等について説明すると
応援したいと言ってもらうことができた

日本大使館からの理解を得ることも
絶対だった

サッカーチーム？

大使館、自衛隊、JICA関係者からなる
オールジャパンのサッカーチームを
結成しませんか？

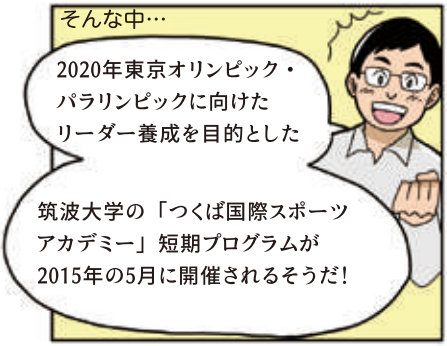
ユニフォームを作って、地元チームや南スーダン
サッカー協会チーム等と試合交流するんです

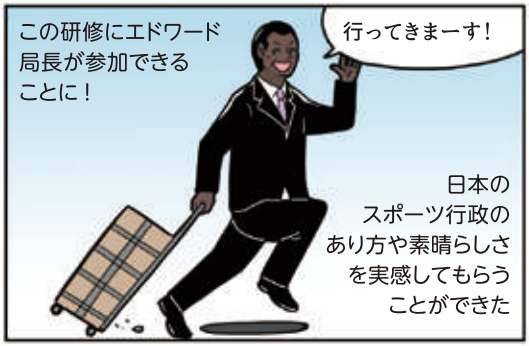
サッカーを通じて仲間意識を
生み出すことができるはずだ！

整備されていないグラウンドで
年齢は 20 ～ 50 代!経験者も未経験者も
混在するサッカーチームを
結成した

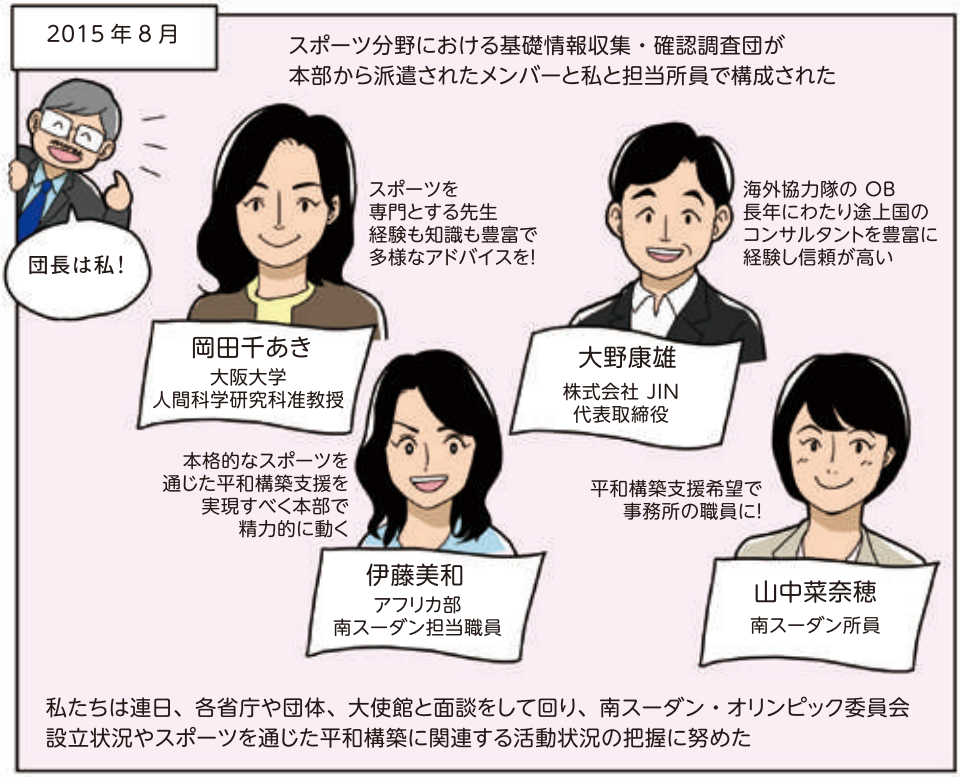
試合が始まると…やっぱり!
試合を通じて
チーム間の仲間意識や一体感を
味わうことができたのだ

途上国ではスポーツに対して国家予算があまりつかないのが現状だった
やはり、エドワード局長の理解と協力が必要だった
JICA が信頼に値するのか、日本のスポーツ行政は南スーダンにとって有益なものなのか、
彼に実際に日本で見て、知ってもらうのが必要ではないかと考えた





こうして JICA や日本への理解や信頼が少しずつ芽生え始めた



南スーダンのスポーツ関係者を日本へ招聘し、
日本のスポーツ振興や 2020 年東京オリンピック・
パラリンピックに向けた活動に
理解を促進することにした

さらに、統一スーダン
時代に開催されていた
国体のようなスポーツ
イベントを
行うことを方針とした

また日本の関係者から将来的に支援をしてもらうためには
南スーダンのスポーツ行政がどのように行われているのか
日本側にも理解してもらう必要があった

日本での招聘プログラムが終わり、
日本から帰ってきた南スーダンのスポーツ行政関係者は、それまでの態度を一変させた

スポーツ省のアグム事務次官は
とても好意的に積極的に
対応してくれるようになったのだ

エドワード局長は、つくばの研修と日本の招聘時のことを振り返った

少しずつ、双方が理解し、信頼関係が構築された
そして、国体の実現にむけての本格的な準備が加速しだした

など6名のメンバーで構成する特別チームを選任
国体支援に向けた JICA ／南スーダン文化・青年・スポーツ省チームが動き始めた

目的は大きく3つ!

その①スポーツを通じた平和の方向性を強化するような目に見えるインパクトあるイベントにする

その②イベントの運営を通じて関係する組織の能力強化を図る

その③将来の協力につながるようなものにする

南スーダン政府は

と命名した

全国から選手を集めて…

開催場所 JUBA

種目内容 サッカー & 陸上競技 に決定!!

南スーダンでは各地で戦闘がくり返され、予算もなく不安な中『国民結束の日』の開催の為、とにかく関係者を説得した

そして独立後 初めての全国州会合を開催するのだが…

文化・青年・スポーツ省の ないものリスト

- 各州に連絡する手段
- ミーティングする場所
- レターを出すための PC・コピー機・電力
- 連絡用通信手段
- 予算!!!

そこで、JICAの前事務所を貸出

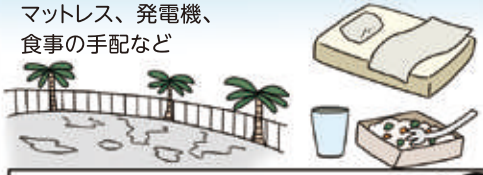
やっとの思いで各州にレターを発出し…

2015年10月

無事会合も開催された!

その後も課題が次々と現れた
まず奮闘したのは…

訓練所の整備、穴だらけのグラウンド整備、500名の選手たちが寝泊りをするためのマットレス、発電機、食事の手配など



『国民結束の日』開催支援のキーパーソンとなる内川知美次長は2015年11月から赴任となった

2016 年1月、独立後初となる第1回の『国民結束の日』の開催を迎えることになったが…

一体どれだけの州から選手団が来てくれるのか…

違う民族と交流がない彼らにとっては、遠く離れたジュバに来るには勇気が必要ですしね

そもそもジュバに来ること自体怖がるかも…

私たちのそんな予想に反して

約 350 名もの選手たちが続々と到着した

ジュバに到着した選手、コーチ、地方職員は合宿先であるロンブール教育訓練所に入った

そしてマットレスは選手たちが話しやすい環境に配置

お互いを知ってほしいとの願いから、州や民族に関係なく部屋割りも食事もチームを超えて交じり合えるよう調整した

選手たちにとっては、これまで敵として認識してきた民族もいる環境となった

2016 年 1 月 16 日

とうとう迎えたジュバ国立サッカー競技場での開会式は青天に恵まれ、開会式日和となった

要人出席者は、南スーダン副大統領、各省庁の大臣、州知事、UNESCO 現地事務所長、紀谷昌彦駐南スーダン日本国大使、JICA 加藤宏理事などであった

イッガ副大統領が会場に到着すると、
観客や選手たちは沸き上がった

ワーッ ワーッ

着席を合図に、学生と軍のバンド
の演奏と共に、国旗や州の旗を掲げた
選手たちが入場行進をし始めた

先頭に高々と南スーダンの国旗を掲げ
それに各州の旗やメッセージを掲げた旗を
掲げながら、誇らしげに約 350 名の選手達は
ジュバ国立サッカー競技場を行進した

この様子を目の前にし

閣僚たちは感動のあまり、涙した…

ルベッカ大臣は涙を流しながら
こう言葉をもらした…

こんな日が来るとは
思わなかった

そして南スーダン政府
要人はスピーチで
こう訴えた

今、我々は
『平和と結束』を最も
必要としている

開会式では南スーダンの
伝統的な踊りや

自衛隊による日本和太鼓の
パフォーマンス

そして国民的歌手であるエマニュエル・ケンベが
JICA からの依頼で作られた曲、
「我々の結束（Our Unity）」を披露してくれた

【歌詞の一部】
星が夜と昼に輝いている
私たちに新しいスーダンを築くための道を見せるために
団結と平和の中で生きる方法について
私たちに道を見せるために
ゆっくりと私たちは過去の問題を忘れるでしょう
音楽で私たちの団結は強くなり
スポーツでも私たちの団結は強くなります

開会式の模様は、
南スーダンテレビで生放送され、
各紙新聞にも、大きく取り上げられた

選手はぶつかり合い倒されるシーンもあったが、すぐさま
相手チームの選手が手を差し伸べて起こす姿が見られた
選手も観客もフェアプレーを貫いたのだ

試合結果は連日新聞で掲載され、
決勝戦はジュバ国立サッカー競技場に観客がぎっしりと集まり
収容規模いっぱいの約 6,000 人で埋め尽くされた
そして、グラウンドには感動の場面が繰り広げられた

これまで敵対していた民族の壁を越え勝った選手が
負けて泣き崩れる相手選手の肩を抱き、互いに健闘をたたえ合った
ブルック陸上競技場で行われた陸上競技も盛り上がった
選手の中には、陸上シューズがなく裸足で駆け抜ける選手も
いたが、選手たちは懸命にグラウンドを走り抜けた

決勝に進んだ選手たちやコーチが
日中の最も暑い中での試合を拒否する
というハプニングで始まった最終日

暑い〜!!
ムリ〜!!

時間や流れを急遽変更し、
何とか閉会式がはじまった

嬉しいサプライズが待っていた

文化・青年・スポーツ省チームから
皆さんに渡したいものがあります!

メダル…嬉しいです!
ありがとう!!

内緒で用意
していました

こうして、独立後初めて開催された
『国民結束の日』は無事に終了した

閉会式を終えた後、グラウンドには沢山の
選手たちが別れを惜しむ姿があふれた

一緒に写真を
撮ろう!

俺もお前もよく
やったよな!

また大会で
会えるといいな…

泣くなよ…
また会えるさ

衣食住を共にし、スポーツを通じて共に戦い、
そして友情が芽生える
そんな幸せなシーンを私たちは目にすることができた

2015年6月

いよいよ南スーダン・
オリンピック委員会が設立した

2016年8月に開催されるリオデジャネイロ・オリンピックが
まさに、国として初めてのオリンピック参加となる予定で
JICAの各部署が一丸となり、南スーダンの
リオ・オリンピックに向けての対応が開始された

しかし…治安が不安定で…
和平合意が中々進まないですね
国家予算は赤字だし

でも今は前を向いて進みましょう
南スーダンとしてオリンピックに参加
できそうな種目、陸上競技なようです!

はい。オリンピックの
「定められた参加標準記録」をクリアして、
男女各19人のナショナルメンバーが
ちゃんと参加できるよう頑張らないと

練習場所は、『国民結束の日』で
使用したブルック陸上競技場…
しかないですよね

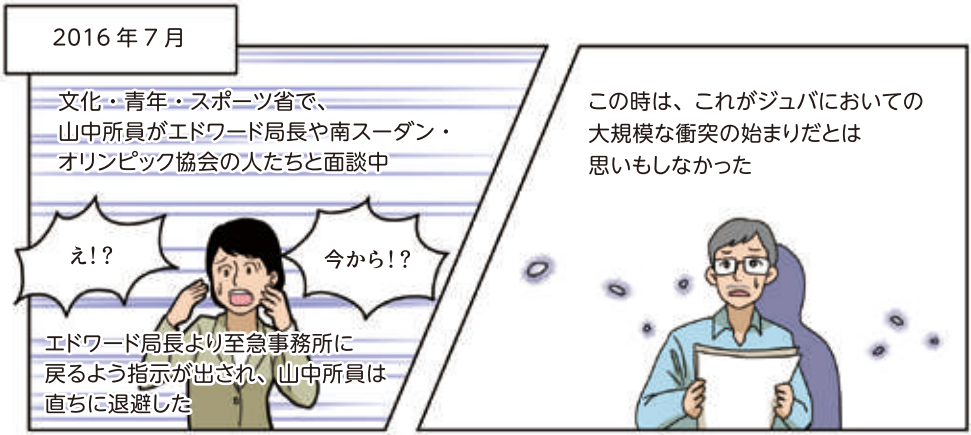
はい…あそこは、周りにフェンスも無く、
人やバイクが入り放題、グラウンドも
石ころだらけで、ただの空き地みたいだ

あとは、競技用の器具や
ユニフォーム!そして正式な資格を
持ったコーチや審判の育成
選手の強化訓練実施のための財源確保!

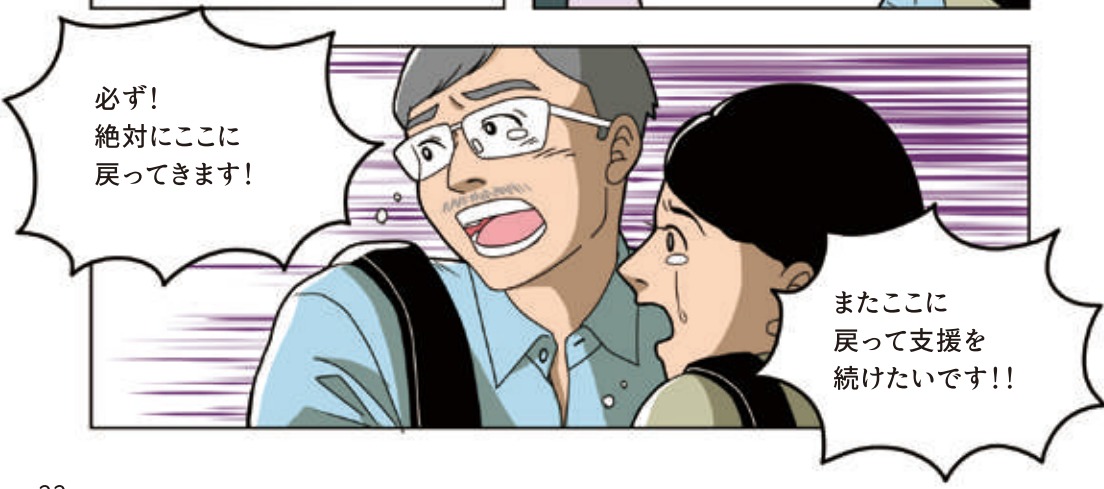
日本の自衛隊にお願いして
グラウンドも整地しましたが、
メンバーはあのグラウンドで
頑張って練習していた

槍投げの選手も槍投げ用の槍がなく
代替品で練習をしたり、
国内に1つしかない高飛び用のマットレス
が移動されるのを待って練習したり…

開催される 1 ヶ月前の 7 月 8 日、
独立後 2 回目となる政府と反政府の間での大規模な衝突が発生した



この混乱は全国へと派生していく
人口 1,200 万人に対し、国内避難民が 185 万人、難民が 177 万人発生、
国民の 3 人に 1 人が家をなくすという大変な事態に発展するのだ



日本帰国後

すぐに理事長と面会し帰国報告となった

北岡伸一 理事長

オリンピック派遣はどうですか？

理事長はこの状況でも派遣を諦めていないのだろうか？

えーと…

大規模な衝突が起きたばかりの南スーダンが開催直前のリオオリンピックに本当に参加できるのか？

南スーダンの人々が困難な状況においてこそ、国民としての一体感と誇りを作り上げていくことが大事なのでは？

今こそ、南スーダンとJICA双方の関係者から、国民に対して『平和と結束』を訴えることが重要だと思います

!!

そして JICA は、リオ・オリンピックに南スーダンとして初となる参加支援をあきらめずに行うことを決断した

この時、リオ・オリンピック開催日まで3週間と迫っていた

リオ・オリンピックに参加する選手は

女子 200m

マルグレット・ルマット・ルマット・ハッサン選手

男子 1500m

サンティノ・ケニ・ワリニャング・ケニ選手

男子 マラソン

グオル・マリアル選手

そして、空港で代表選手、大臣の記者会見を行った

ケニ選手

南スーダンにとって初めてオリンピックに参加できる事に興奮しています

リオで南スーダンの国旗を掲げたいオリンピックを通じ、南スーダンの若者に『平和と結束』を呼びかけたい！

スポーツには人々を結束させる力があります南スーダン政府は『平和と結束』の為にスポーツを振興していきます

ナディア・アロップ・ドゥディ 文化・青年・スポーツ大臣

2020年の東京オリンピックでは、より多くの選手を派遣したいと思っています

2016年8月5日

リオデジャネイロ・オリンピック
（平和の祭典）が開幕

私たちは日本からの
応援となった

開会式では
南スーダン選手団は誇らしげに
国旗を高々と掲げ
心からの喜びの表情を浮かべ
行進する

国として初めてのオリンピック参加
まさに、南スーダンにとって記念すべき日となった

開幕後、地元要人たちの感想を聞くことが出来た

今回は南スーダンが国として一つの国旗を掲げ参加した
とても感慨深かった
出場した選手たちが優秀な成績を収める収めないに全く関係
なく、選手たちが国の代表として、
オリンピックに出場したこと自体が国家としての誇りです

南スーダン教育省
事務次官

エドワード局長

JICA の皆とオリンピック参加における議論の
真っ只中に大規模な紛争が始まった
でも、どんなことがあろうとも JICA は継続して支援
してくれると信じていた
JICA が退避したことも知っていたが、
必ず…支援してくれると信じていた。
退避する前に、あなたが私に電話をしてくれたことを
思い出す
JICA は我々を見捨てないと確信させてくれた

トン・チョル・デラン
南スーダン・オリンピック委員会事務局長

私たちの国はまだ若く
チームはまだとても小規模ですが、ここがスタート
2020 年の東京に向けてスタートです!

全世界が注目するオリンピックで
選手団は南スーダンの国旗を掲げ
入場した

南スーダンという国を世界に
認知してもらいたい、若者に希望を与え、
国の平和と国民の結束を訴えたい…
関係した全ての人の強い思いがここにあった

スタッフ間でこのプロジェクトにおける様々なことを振り替った
『国民結束の日』の大会に全国から集まった若者は10日間の合宿生活を経験し
他の地域・民族の若者と交流できました
「ジュバに行けば殺される」、と思っていた若者たちが、敵対する他の地域からの若者とちゃんと交流できるのか？とても心配だったけど
ほぼ全員が他の地域の選手と話をしたって言っていましたね
合宿所では一緒に寝泊りし、食事し、スポーツ道具を借り合ったり
自由時間に練習し、最後には試合の応援をしたり…
ほぼ全員の参加者が他の地域からの人たちと友達になったと言っていましたね これからも連絡を取り合うんだって
他の民族と平和的に共存することの重要性を理解したと話す人もいました
敵対する他民族の文化を理解し、もはや彼らを悪人と見なしていない
と真っすぐな眼差しで言ってきた選手も
こういう交流が国の平和を促進することに通じる 僕たちにとって『国民結束の日』が平和構築プロセスの一部となったということですね
若者が勇気を持って一歩踏み出した先に友情が芽生え『平和と結束』に繋がっていく可能性がある事を、選手から教わりましたね

20 歳の男子サッカー選手

平和の重要性を認識しました
私たち全員が平和に時間を
共有し、国の共通の利益のため
に一緒に働くことが非常に
重要だと思います

一堂に集まり、共に
衣食住をする中で
私たちはそれぞれが
異なっている訳ではない
ことを認識したのです

19 歳のバレーボール女子選手

より一層の平和について、そして、
どのように南スーダン人として互い
を尊重し、自分自身のことを理解で
きるのかを学び、『平和と結束』を
もたらすためにスポーツが果たす
大きな役割についても学びました

私はバレーボールで地域の平和を
促進したいと考えています
そして学んだことを私の地域の
人々と共有したいと思います

16 歳の女子陸上選手

平和は互いに戦わずに
一緒になる行為であり、
そのことがここで
起きていた

平和とともに私たちの国が
発展することが出来ると
思いました

16 歳の男子サッカー選手

『国民結束の日』を通して、誰もが言語や文化などを
超えて学びあえる可能性があることを知りました。
異なる地域や他の地域からの観客との間での
平和や愛や調和を確立できました

初めてジュバに到着した時は、不安でした

でも、他の地域のチームの人と出会ったその晩、みんな
冷静で友好的で、彼らとの経験やスポーツ器具などを
一緒に共有することを楽しめました

そして、友人ができ、ジュバに来ることが心配じゃなくな
りました。逆に、他の地域や民族の人々が私の地域に
来る時には、彼らと一緒にいたいです

『国民結束の日』を観に来ていた一般の人に
後日とったアンケートも紹介したい

日々の生活の中で
人々に対してより
社交的になった！

参加前は、平和が社会で
重要な理由を知らなかったが
参加後は肯定的な気分で家に帰った！

異なる州の人々と
自信をもって交流できる
ようになった！

他のコミュニティとの
共存の重要性を知った！

他の地域の人々に対する
私の否定的な態度を
積極的な姿勢に変えた！

私の人生を悪いものから
良いものに変え
他の地域のことも愛することが
できるようになった！

他の州からの人々は
悪いから、悪い人たちを愛する
ことができなかった
でも他の民族を好きに
なり始めた

観客や選手たちの間の友情を構築
することにより、我々南スーダン人は
結束するんだと思った

もう過去の緊張感を持つ
必要がなくなった

選手たちのプレイは私に平和、結束、
社会統合の理解を与えてくれた
プレイの中に、平和の精神を
見ることができたから

交流は平和をもたらし
人々は友人を作る
ここで出会った人々は
永久に友人となる

『国民結束の日』の後、JICA が行ったアンケートでは
110 名の観客全員が認識や態度が変わったとしている

『国民結束の日』そして『オリンピックへの参加』
これらスポーツを通じた平和の祭典が目指すこと

そしていつの日かみんなが
手と手を取り合って
「フリーダム・ブリッジ」を渡ってほしい

「フリーダム・ブリッジ」は
2022 年5月に完成した南スーダンを流れる
ナイル川にかけられた国内初のアーチ型の橋

度重なる紛争や困難を乗り越えて完成した
この橋は、南スーダンの平和と自由、
そして明るい未来への期待を込めて
日本が贈ったものだ

『国民結束の日』サッカー決勝戦に
4 歳の息子カウ君と観戦に来ていた
タバン・アワドさんはこう言っていた

父親は独立戦争に参加し、
自分は母親に育てられた

自分が父親となった今、
息子のそばにいてやりたいと思う

南スーダンが、
毎日スポーツが行われるような平和な国に
なってくれることを願っている

独立行政法人国際協力機構（JICA）は
日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として
開発途上国への国際協力を行っています
JICAは、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンとして
人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる
自由で平和かつ豊かな世界を希求し
パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます

スポーツを通じた平和と結束

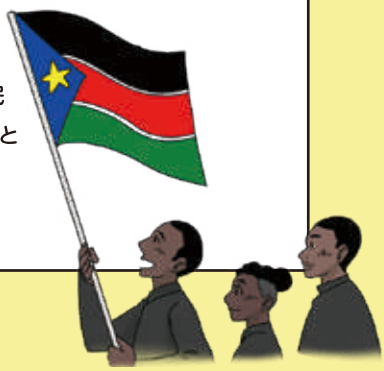
南スーダンは半世紀に及ぶ内戦を経て、2011年7月9日にスーダンから独立した新しい国です。しかし、独立から約2年半後の2013年12月に紛争が勃発。その後、和平合意がなされ暫定政権が樹立したものの、予断を許さない状況が続きました。“フェアプレー精神に則るスポーツを通じて、南スーダンが一つになることを国民に呼びかけたい”。そのような同国政府の切実な思いを実現させようと、JICAは全国スポーツ大会開催を支援。同国政府は全国スポーツ大会を「National Unity Day（国民結束の日）」と命名し、現地にいた自衛隊や日本企業などの協力も得て、2016年1月に独立後初となる第1回大会が開催されました。以降、JICAは毎年「国民結束の日」の開催を支援しています。

詳しくはこちらを
ご覧ください

南スーダン全国スポーツ大会「国民結束の日」

JICAのスポーツを通じた支援

JICAは、南スーダンとして初めてのオリンピックへの参加も支援。折しも選手団が発表される予定だった2016年7月8日に再び南スーダン国内で紛争が勃発し、JICA南スーダン事務所の日本人職員らは国外退避を余儀なくされました。このように数々の難題が立ちはだかりましたが、同年8月のリオデジャネイロオリンピックに陸上競技3選手が、東京オリンピックに陸上競技2選手が出場を果たすことができました。引き続き、JICAは南スーダン選手団のオリンピック出場、現地での「国民結束の日」の開催などを通じ、「スポーツを通じた平和と結束」の実現に向けた支援を続けています。



企画制作・発行　：　独立行政法人 国際協力機構(JICA)

監　　修　：　古川光明

漫　　画　：　びるじろうず

脚本・デザイン　：　ROOM810

発行年月日　：　2023年3月

プロジェクトヒストリー
当冊子はこちら

この作品は事実に基づいて執筆された書籍「スポーツを通じた平和と結束　南スーダン独立後初の全国スポーツ大会とオリンピック参加の記録」を元に、再編集し制作された漫画です。